

○議長（前原英石君） 3番 加藤智恵子君。

○3番（加藤智恵子君） 3番加藤智恵子です。私からは、子育てに関連した保育所の見える化についてと高齢者の介護予防対策について質問させていただきます。

まず初めに、静岡県裾野市の保育所において不適切な保育が行われていたという事案が発生しました。このほか、富山市の認定こども園や宮城県仙台市の企業主導型保育所においても不適切な保育が行われていたという事案が発生するなど、全国で同様の事案が相次いでいます。

こうしたことから、12月7日、厚生労働省子ども家庭局保育課から、改めて「保育所等における虐待等に関する対応について」の留意事項等を整理した事務連絡を発出し、各自治体及び保育所等に対して周知徹底を依頼されました。

多くの保育所においては適切に保育を行っていただいているものと考えていますが、このような事案が全国的に発生していると、自分の子どもは大丈夫なのかと不安になれる方もおられると思います。

保育所は働く親を支える社会インフラであり、保育士さんは地域、社会を支える大切なエッセンシャルワーカーです。保護者と保育所はお互いの信頼関係で成り立っており、保護者は保育士さんに保育の悩みを相談して、親子共々助けていただいたりしています。

このように保育所と保護者の良好な関係でも、子どもの様子に、いつもとちょっと違うぞと感じたことがあるかもしれません。保護者は、日中の保育を見ることはできませんが、見守りカメラで子どもの様子を見ることができれば安心できます。

保育所を見守りカメラも使って見える化することは、子ども、保育所、保護者にメリットがあります。

令和3年12月定例会で、次のようにカメラの設置を提案させていただきました。読み上げます。

「両保育園に防犯カメラの設置を提案します。防犯カメラの設置は、外部からの不審者の侵入に対する抑止力になることはもちろん、個々の保育対応が重なり、不可抗力として保育士の目の届かないときの事故等の検証ができることから、保育士を守ることにもつながります。また、そのことが保護者の安心感にもつながり、有効な方法として各地の保育所で導入が進んでいます。本村の2園についても早期の導入に向けて検討すべきであると考えますが、当局のお考えをお聞かせください」という内容でした。

このときのカメラの導入状況や見つかった課題等をお伺いします。

今年はこのような事案があったため、保護者から、カメラを見守りカメラとして保護者も見ることができるよう改善を要望する声が多く聞かれています。当局の考えを伺います。

次に、高齢者対策として、介護予防とeスポーツについてです。

富山県厚生部高齢福祉課では、要介護者が増加して介護保険がパンクしないように、介護予防に力を入れるという大きな政策目標があります。従来は高齢者向けの百歳体操などを行っていたのですが、どうしても内容がマンネリ化してしまい、参加者が増えない状況でした。

マンネリを打破するツールとして、eスポーツが期待できるらしいということが分かり、県内各地で体験会が行われるようになりました。体験会では、今まで出てこられなかった男性も参加されておられるという情報もあります。

高齢福祉課からeスポーツ体験会の案内があり、本村の老人クラブも体験会の申込みを行いました。老人クラブだけでなく、65歳以上の方々に声をかけて、一緒にeスポーツ体験会を3回行いました。

1回目は10月3日、2回目は11月7日に高齢者だけで行いました。ゲームに多少の抵抗があったりする方も、実際にゲームをしたら楽しかったと好評でした。3回目は、高齢福祉課の勧めもあって、すきっぷ園さんの協力の下に、学童保育の子どもたち、小学校1・2年生12人と交流会を行いました。高齢者は、子どもたちからゲームのコツを教えてもらったり、その他会話も弾み、双方に好評でした。

県内では来月、射水市でeスポーツ全国大会が行われる予定になっています。

eゲームの設備としては、家庭用ゲームソフト1台5万円をテレビにつなぐだけでも実施できるそうです。

高齢福祉課では、まだ高齢者とeスポーツ事業は始まったばかりなので、eスポーツに熱心に取り組んだ高齢者の介護認定の割合が下がったという数字やデータはできていません。しかし、まずは理屈抜きで楽しむということを目指し、それが介護予防につながっていくという気持ちで進めていくのがよいと思いますとのことでした。

本村でも、今後、異世代の仲間が集まって、eスポーツを楽しめる集いの場をつくらせていただくことを希望します。当局のお考えを伺います。お願いします。

○議長（前原英石君） 生活環境課長 田中 勝君。

○生活環境課長（田中 勝君） 3番加藤議員の保育所・保育の見える化についての質問

にお答えいたします。

議員の提案により、すきっぷ園には防犯カメラを設置いたしました。こども園にも設置を再度依頼したいと考えております。

ただし、見守りカメラとなると、保護者からは自由に見ることができますが、プライバシーの問題がついてまいります。他の保護者に我が子の日常を見られるのを嫌がる人もいると考えられます。

カメラの映像を見ることで、逆に不安になる場合も予想されます。保護者によっては、偶然見始めた場面からの断片的な映像で、うちの子はいつも放置されているのではないかと、友達とけんかして先生はなぜすぐ止めないのか等、保育園に不信感を抱いてしまうことも出てくるのではないかと思います。

見守りカメラをつけるよりも、保育士との信頼関係構築のほうが保護者の安心につながると考えます。日頃の保育士と保護者のコミュニケーションが取りやすい環境づくりが重要であります。

今はコロナ禍で厳しい部分もありますが、送迎時に直接対話で話せる時間を持つことも一つだと考えております。保育士が保護者や子どもとゆったりした気持ちで関わり、日常の様子を伝える中で、一緒に成長を喜んだり、時には悩みを共有しながら、保護者の皆さんに寄り添い、一緒に子育てしていると感じられることが何よりも大切であると考えております。

村としては、防犯カメラの設置をもって、子ども、保護者、保育士の安心が保たれるものとし、見守りカメラへの設定の変更については、現時点では必要ないものと考えております。

今年取り付けたカメラのチェックについては、必要となる事案がなかったため、検証は行っておりません。また、死角についても、全部を撮影することは困難であり、今現在撮影できなくて困った事案は起きておりませんが、今後問題があれば増設等を検討してまいります。

続きまして、eスポーツの件についてですが、eスポーツについては、関心を持つ方がいれば新しい通いの場となる可能性もあり、脳トレの認知症予防やなかなか進まない通いの場への男性参加者獲得など重要な役割も考えられます。また、普及を目指すのであれば、まずは老人クラブ連合会等でモデルとして実施され、実践希望等の調査を行い、効果が期待されると判断した場合は実施に向け検討していくことが考えられます。

村社会福祉協議会と連携し、モデルとして行う場として老人クラブ連合会の行事や月イチ園むすびを含む異世代交流の場、地域包括支援センターの一般介護予防教室等で検討してまいりますので、議員のご理解を賜りますようお願い申し上げまして、答弁いたします。